

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	原価計算2 (Cost Accounting 2) 2037333-120					担当教員	中村 大輔 (ナカムラ ダイスケ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	3年次	開講期	後期
科目特性	資格対応科目／知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要
原価計算は、企業における特定の経済活動単位についての、原価と給付を比較計算する事である。原価計算は販売価格の設定だけにとどまらず、コストの削減や原価の作り込みなど、財務会計目的だけではなく管理会計目的としても重要である。換言すれば原価計算は企業経営者の業務的ないし構造的（戦略的）意思決定に必要不可欠な知識でもある。本講義は日商簿記1級の「工業簿記・原価計算」に対応し、特に原価計算2では直接原価計算や、業務的・構造的意意思決定などの管理会計的側面について学ぶ。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力を養う。
③ 授業の進め方・指示事項
日商簿記2級の工業簿記をベースとして日商1級範囲の原価計算を学ぶ。2級工業簿記（工業簿記1・2）の復習をしておくこと。スライド資料、レジュメ等はGoogle Classroomを通じて配布する。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
工業簿記1・2に続く科目である。日商簿記2級工業簿記が理解できない場合、授業内容は理解できないため、これらの内容を学んだことがある学生が対象である。「原価計算1」の履修を必要とする。
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) CVP分析や原価の固定分解、原価差異の分析を理解し、日商1級相当の問題に解答できる (ii) 業務的・構造的意意思決定を理解し、日商1級相当の問題に解答できる (iii) ライフサイクル・コストニング、品質原価計算など比較的新しい分野を理解し、日商1級相当の問題に解答できる。
⑥ テキスト（教科書）
テキストは用いず、テキスト相当のレジュメを配布する。
⑦ 参考図書・指定図書
岡本清(2000)『原価計算（六訂版）』国元書房 岡本清・廣本敏郎編著『検定簿記講義 1級工業簿記・原価計算<下巻>』中央経済社

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) CVP 分析や原価の固定分解、原価差異の分析	難易度の高い検定試験レベルの原価計算ができる	標準的な検定試験レベルの原価計算問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの原価計算問題について教科書を見ながらであれば正答できる	基本的レベルの原価計算問題について教科書を見ながらでも正答できない。
(ii) 業務的・構造的的意思決定	難易度の高い検定試験レベルの原価計算ができる	標準的な検定試験レベルの原価計算問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの原価計算問題について教科書を見ながらであれば正答できる	基本的レベルの原価計算問題について教科書を見ながらでも正答できない。
(iii) ライフサイクル・コストニング、品質原価計算など比較的新しい分野	難易度の高い検定試験レベルの原価計算ができる	標準的な検定試験レベルの原価計算問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの原価計算問題について教科書を見ながらであれば正答できる	基本的レベルの原価計算問題について教科書を見ながらでも正答できない。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	80%		20%					100%
(i) CVP 分析や原価の固定分解、原価差異の分析	30%		5%					35%
(ii) 業務的・構造的的意思決定	30%		10%					40%
(iii) ライフサイクル・コストニング、品質原価計算など比較的新しい分野	20%		5%					25%
フィードバックの方法								

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
できるだけ多くの問題に触れ、各自で日商1級相当原価計算が実施できるレベルに到達できるように進めたい。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	ガイダンス・原価計算1の復習	原価計算1の内容あるいは、工業簿記1・2の内容を復習しておく。（授業には電卓持参）	90分
2	直接原価計算	レジュメを読み、2級範囲の直接原価計算（特に固定費調整）の復習をしておく。（授業には電卓持参）	90分
3	CVP分析	レジュメを読み、2級範囲の損益分岐点分析の復習をしておく。（授業には電卓持参）	90分
4	原価予測の方法	レジュメを読み2級範囲の高低点法の復習をしておく。（授業には電卓持参）	90分
5	利益・原価差異の分析	レジュメを読み、分析式の展開について理解できるようにする。（授業には電卓持参）	90分
6	営業費の計算と分析	レジュメを読むとともに、練習問題に触れておく。（授業には電卓持参）	90分
7	業務的意思決定の分析	レジュメを読み、業務的意思決定と機会原価の概念を理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
8	構造的意決定の分析	レジュメを読み、加重平均資本コストとDCFについて理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
9	ライフサイクル・コスト	レジュメを読み、ライフサイクル・コストの考え方を理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
10	品質原価計算	レジュメを読み、品質原価計算の特徴について理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
11	原価企画・原価維持・原価改善	レジュメを読み、標準原価計算と原価企画の関係について理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
12	活動基準原価計算	レジュメを読み、活動基準原価計算について、部門別計算との違いを理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
13	問題演習（原価計算分野）	原価計算1で学修した範囲を復習しておく。（授業には電卓持参）	90分
14	問題演習（管理会計分野）	原価計算2で学修した範囲を復習しておく。（授業には電卓持参）	90分
15	まとめ	原価計算1・2で学修した範囲を復習しておく。（授業には電卓持参）	90分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。適宜小テストや課題等を行い、その解説を行うことで知識の定着を図る

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性